

注 意 報

農技セ第5509号
令和6年8月2日

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和6年度農作物病害虫発生予察情報について

令和6年度農作物病害虫発生予察注意報第4号を発表したので送付します。

令和6年度病害虫発生予察注意報第4号

令和6年8月2日
徳 島 県

7月第4半旬から第6半旬に行ったサツマイモに対する食葉性害虫の調査で、特にフェロモントラップ調査におけるシロイチモジヨトウの成虫誘殺数が平年に比べて多く、今後本幼虫による被害の拡大が予想されますので、注意報を発令します。

現地ほ場においては、本虫の発生状況を注視するとともに、適切な防除指導をお願いいたします。

作物名：サツマイモ

病害虫名：シロイチモジヨトウ

1. 発生地域 県北東部サツマイモ栽培地帯
2. 発生時期 8月上旬～
3. 発生程度 多（前年より多く、平年より多い）
4. 注意報発令の根拠

(1) 県内のサツマイモ栽培圃場4地点に設置したフェロモントラップの調査では、7月第4半旬から第6半旬において平均誘殺数が1,314頭と、平年(647頭)の約2.0倍となった(図1)。

特に、徳島市川内町では2,313頭と、平年(824頭)の約2.8倍(図2)、鳴門市大津町では2,068頭と、平年(882頭)の約2.3倍となった(図3)。

(2) 7月26日に実施したサツマイモ現地16圃場の巡回調査では、シロイチモジヨトウの発生圃場率が6.3%、25株当たり寄生幼虫数が0.06頭と、平年(4.5%、0.06頭)並の発生である。

(3) 高松地方气象台が8月1日に発表した1か月予報では、気温は平年より高い状態が続く見込みとされており、今後栽培圃場への飛来および加害の増加が予想される。

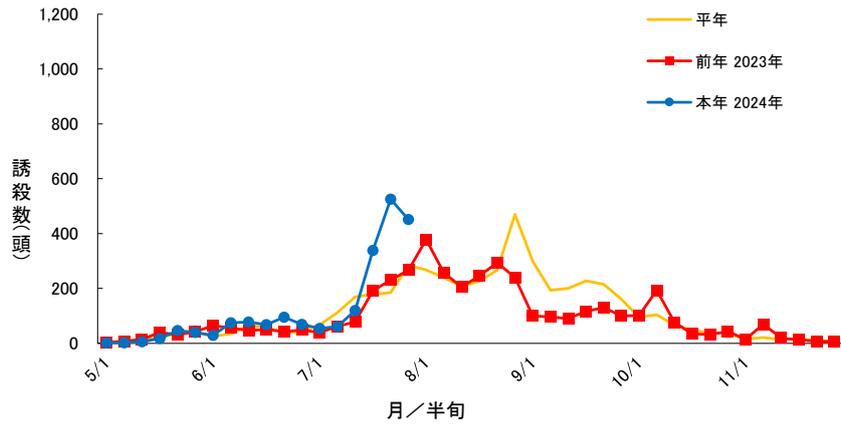


図1 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数の推移
(徳島市、鳴門市、松茂町のサツマイモ圃場4地点平均)

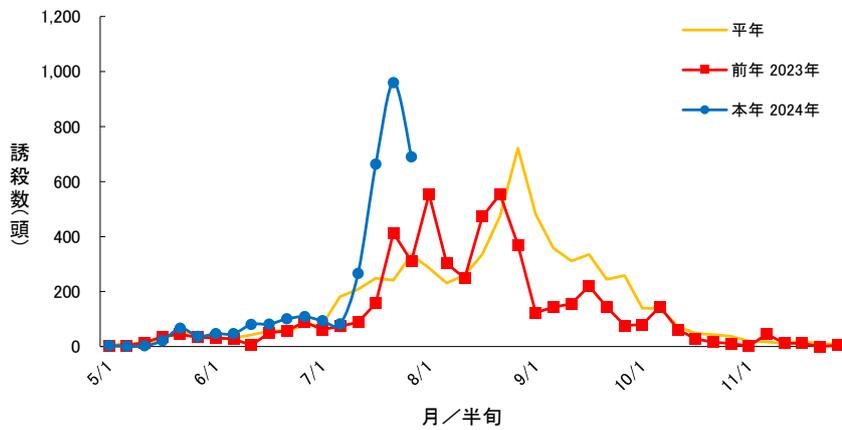


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数の推移
(徳島市川内町サツマイモ圃場)

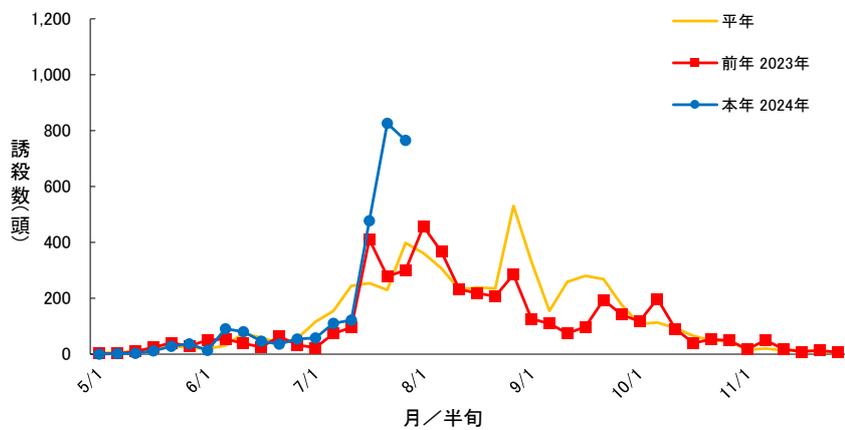


図3 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数の推移
(鳴門市大津町サツマイモ圃場)

5. 防除法等

(1) 中・老齢幼虫には薬剤の効果が低くなるので、若齢幼虫期に防除する(表1)。

(2) 卵塊や分散する前の若齢幼虫を発見したら、速やかに捕殺する。

(3) 防除については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

(<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/tokushima>)

(4) 今後の発生動向については、徳島県立農林水産総合技術支援センターウェブページ内、病害虫防除所の各種データ・フェロモンのページを参考にする。

(<https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/various-data/various-data/7240022/>)

表1 かんしょでシロイチモジヨトウに登録のある農薬(令和6年8月1日現在)

薬 剤 名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	I R A C コード
アフーム乳剤	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内	6
コテツフロアブル	2000~4000倍	収穫前日まで	2回以内	13
ブロフレアSC	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内	30



図4 シロイチモジヨトウ卵塊



図5 シロイチモジヨトウ幼虫



図6 シロイチモジヨトウ成虫